



2013年3月7日

LODチャレンジJapan2012授賞式

Open = つながる。

審査員特別賞
チャレンジデー賞
学生奨励賞

受賞作品エントリー

- ◆ i007 LODでゲノム情報と地域をつなぐ「体質ナビゲーション」
- ◆ d035 青空文庫 Linked Open Data
- ◆ d036 国会会議録データセット(対話コーパス)
- ◆ d045 JAXA宇宙航空データリスト
- ◆ d065 公共施設マップ/d066毎月1歳毎年齢別人口/d067 毎月大字別人口
- ◆ d078 Open DATA METI
- ◆ d081 日本のデータカタログサイト
- ◆ v014 コトバノキ
- ◆ v019 OpenTextMap(先生のため地理歴史教材地図)
- ◆ v021 Little and Big World - Tales of LOD
- ◆ a003 ヨコハマ・アート・ガイド/a013 LGD Viewer /a014 OSM Node Viewer
/a026 どこでもPinQA
- ◆ a012 横浜歴史フィールド・ミュージアムAR
- ◆ a015 みんなで創る音声アシスタント「花之声」～あなたのつぶやきがオープン
データになる～
- ◆ a021 さばえぶらり

チャレンジデー賞

A012 横浜歴史フィールド・ミュージアムAR

◆受賞者◆

横浜歴史フィールド・ミュージアムARチーム

上野直樹、関口昌幸、秋元慶太、谷杉歩音、大崎 敬志郎、
朝香貴裕、藤川恵一、嘉門保夫、杉浦裕樹、生島高裕

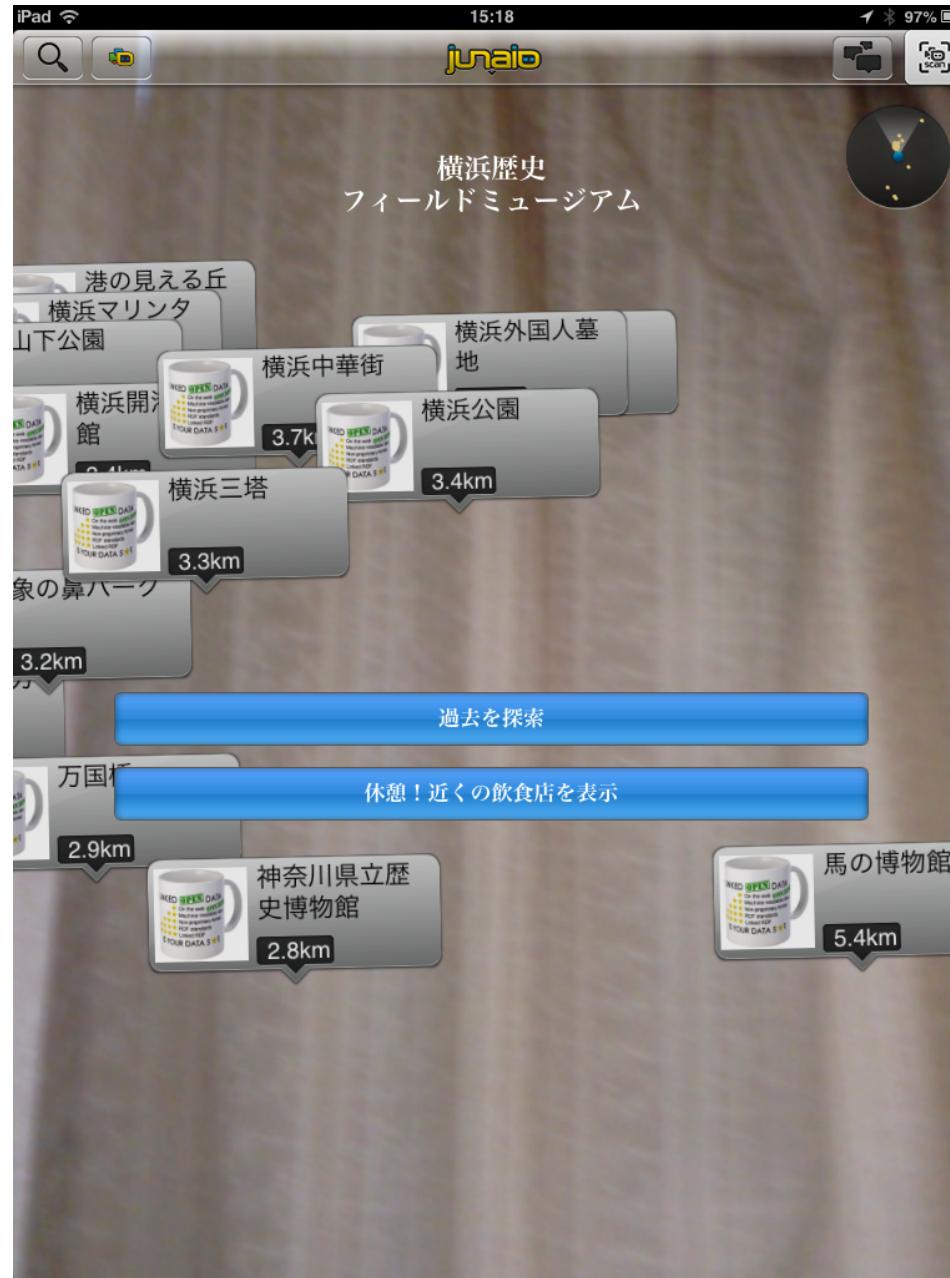
◆推薦の言葉◆

タイムリーな街情報と、新たな市場性がある点が魅力です。特定地域限定ですが、文化的資産、観光情報がARブラウザで利用可能なLODで活用度が高まると期待されます。LODとARの初のコラボアプリであることを評価しました。ARの発展をどんどん取り入れて欲しいと思いました。横浜を歩きながらこういうの見ると楽しいと思います。

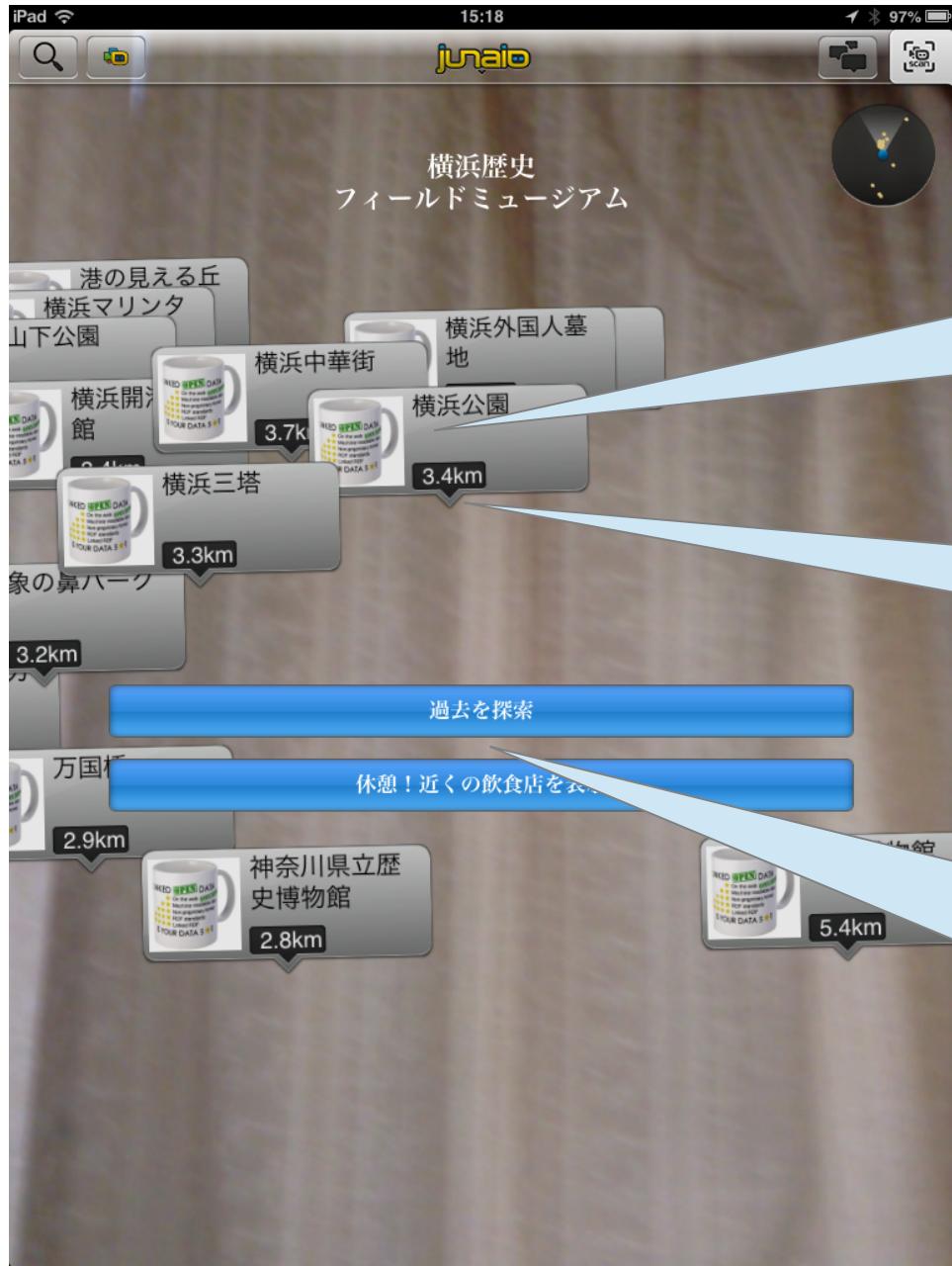
横浜歴史フィールドミュージアムAR ご紹介

横浜歴史フィールドミュージアムAR
チーム一同

初期プロトタイプver. スクリーンショット



初期プロトタイプver. 略説(iPadにて)



タップすると
DBpediaより
解説文引用

方角と距離表示

歴史探索モードと
飲食店検索モードに
切り替え可能

開発の経緯

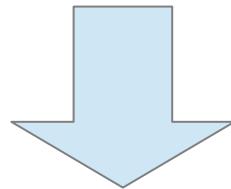
2013年1月25日～26日に夜通しで行われた、
『横浜オープンデータハッカソン -LODチャレンジデー in 横浜-』の場に
てチームが組まれ、開発に至った



<http://lod.sfc.keio.ac.jp/blog/?p=887>

開発の経緯

- 当初は「横浜の文化と観光」というテーマ
- DBpediaから、SPARQLでデータを取得
- junaioという、スマートフォン向けの無料ARプラットフォーム
(=ARブラウザ)をフロントエンドとして使用

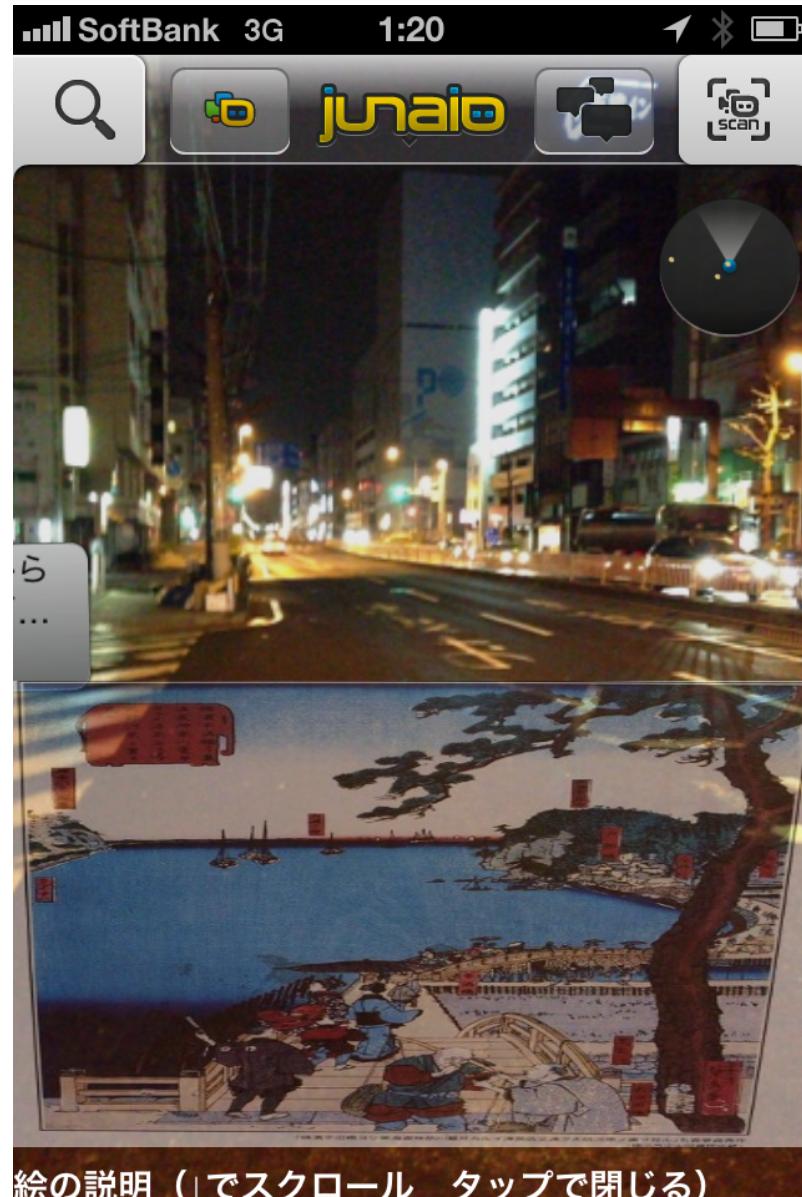


横浜の史跡や史実上の出来事など、テーマを歴史に焦点化し、「**横浜歴史フィールド・ミュージアムAR**」を開発することに

「横浜の歴史」を4種のコンテンツ、
つまり4種のARコンテンツとして更に細分化し、
それらから成る総合成果物としてローンチ：

1. 浮世絵と現在の場所とのオーバーレイ(重ね合わせ)
2. 史跡指定や文化財指定などを含めた、歴史的建造物
3. 横浜が日本初・発祥の地であるもの
4. 開港前後の歴史的な場所

一例：浮世絵と現在の場所とのオーバーレイ(重ね合わせ)



横浜オープンデータハッカソンで 最優秀賞を頂きました！



<https://www.facebook.com/photo.php?fbid=478156875553904>
めでたしめでたし.....？

『まだだ！まだ終わらんよ！』

浮世絵アフター ~It's a Wonderful AR~

——LODチャレンジ提出後のこと。

2月23日の『インターナショナル・オープンデータ・デー in YOKOHAMA』において、開催イベントの一つに、改善が重ねられた当作品が用いられた



<https://www.facebook.com/photo.php?fbid=4775927508946>

浮世絵アフター ~It's a Wonderful AR~

——LODチャレンジ提出後のこと。

NHKより取材があり、2月23日当日放送の『首都圏ネットワーク』内でその様子が取り上げられた



<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130223/k10015733591000.html>

<https://www.facebook.com/photo.php?fbid=423597184381554>

まとめ

- システム開発はあくまで手段である
- LODチャレンジを含む、あらゆるイベントは、関連する。
個々単体ではもったいない
- 今回、
アイディアソン→ハッカソン→システム実践の場
という「連續した活動」に我々のチームは位置していた
- フィードバックを受けてシステムを更に洗練している
と同時に、次に繋がる活動の機会も一同模索中

学生獎勵賞

d035 青空文庫 Linked Open Data

◆受賞者◆

落合香織

◆推薦の言葉◆

電子書籍化が進みつつある中、利用に踏み切れない読者層を増やす良い機会になると思います。他のLODデータとの連携及び青空文庫メタデータ語彙定義などLODとしての利用までが考慮されている秀逸なデータセットです。青空文庫の本と著者の関係を綺麗にLODとしてまとめるというのは正しいアプローチだし、Web NDL Authorities やDBpedia Japaneseにリンクしているのはポイントだと思います。また青空文庫だけでなく国会図書館のデータも活用し、さらにSPARQLのエンドポイントを設けているところも評価できます。今後は是非意味解析にも進んで欲しいと思いました。

青空文庫 Linked Open Data

青空文庫

- 主に著作権の消滅した作品を揃えたインターネット電子図書館
- 約12000件の書誌データを持つ
- 書誌データは、青空文庫から**CSV**で提供されている



なんだかもったいない！

主に行つたこと

- 青空文庫書誌データに合わせてスキーマを作成
 - NDLが提供する青空文庫書誌データのスキーマを参考に作成
 - 本文ファイルへのURLなど、詳細な情報も記述出来るようにした
 - 青空文庫に合わせた新しい語彙を作成
 - 例:aozora:character ⇒ 文字遣い種別
- 他のデータとの連携
 - NDLが提供する青空文庫書誌データ、著者典拠データ
 - DBpedia Japanese
 - 青空文庫の図書カードのページで著者の紹介として付けられたリンクをもとに連携
- Open Refineなどを用いて青空文庫のCSVデータ+ α をRDFへ変換

他のデータとの連携の例

